

サトリの  
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、  
仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗大善坊住職  
長谷川寛清さん

第113回

私が生まれ育った山梨県身延町の「大善坊」は祖父が先代住職で、父は老人ホームを運営していました。私は高校・大学と東京で過ごし、戻りましたが、日蓮宗本山である身延山久遠寺に勤務。同年に祖父が亡くなり、私が後を継いで大善坊の住職になりました。

2010年からは法華経の聖地と呼ばれる七面山を統括する別当職を務めさせていただき、ところが、3年間の務めを終えて身延に戻ってきた私は体調を崩してしまつたのです。1年ほどは何

もできないような状態。すると2014年、日蓮宗の最高指導者である法主・内野日総猥下から「あなたに隨身長をお願いしたい」と。隨身長とは法主様のお付きの人で秘書のような重要な役目。「なぜ具合の悪い私に？」とびくりしました。法主様は私の祖父が真面目に身延山で働いていたこと、父の老人ホーム経営がうまくいかなかったことなどから、「あなたのことをずっと心配していた」と。具合の悪い私を心配し、任命してくださいました。

「共に生き、共に栄える」  
法主様の御心を伝えたい

法主様にお仕えするのは有能な人だとばかり思っていた私に、法主様は「心が大切。共に生き、共に栄えようという心を持つていれば十分だ」とおっしゃってくださいました。まさに命を助けられた思い。こうして2014年から3年間、隨身長として法主様に仕えさせていただきました。

「共に生き、共に栄える」＝共栄が法主様の御心です。人間は助け合わなければ生きていきません。互いを思いやつて共に生き、共に幸せを感じることが世界平和にもつながります。久遠寺では昨年からの言葉のスローガンに「共栄運動」を始めました。さまざまな行事などを通して、僧侶と信徒の垣根を超えて「共栄」の精神を広げていきたいと思っています。



身延山の東谷にある宿坊「大善坊」(山梨県南巨摩郡身延町身延3513 ☎0556-62-0056)。宿泊してお寺体験や身延散策が楽しめる。

自分ひとりでは悩まず

大切な人との出会いを信じて

身延山久遠寺には、いつも笑顔で訪れる人を迎える法務部長さんがいらつしやいます。私が「部長さんのようにどんな方にもニコニコして親しく話をする事ができません。どうすればできるのですか？」と聞くと、部長さんは「私は常に出会いを大切にしている。笑顔を見れば絶対に出会いが粗末になることはない」とおっしゃいました。私は深く共感しました。

法主様が私を助けてくださった出会いがあったように、出会いはとても大切です。生きつらさや孤独感を抱えている人は、出会いを大切にしているでしょうか？ 法華経の教えには「実は大切な人にはもう出会っている」とあります。今のあなたの悩みを解決してくれる人にはすでに出会っている、または出会うことになっているのです。嫌いな人や苦手な人も含めて、改めて周りを見渡してみましよう。自分が出会っている人、これから出会う人の中に大切な人がいると信じていれば、出会いはもつと大きな意味を持つはずですよ。

人との出会いを大切に  
共栄できる世界を目指して

はせがわ・かんせい 1962年生まれ、山梨県出身。早稲田大学法学部卒業。1987年より身延山久遠寺に勤務。同年、身延町にある宿坊「大善坊」の住職に。2010～2013年まで法華経の聖地として名高い七面山敬慎院別当、2014～2017年まで第92世法主・内野日総猥下の隨身長を歴任。現在は身延山久遠寺の執事・財務部長を務めている。